

MEを

第4次中野区民地域福祉活動計画

社会的孤立を生まない
人と人がつながる地域をつくる



WEに する

地域福祉活動計画とは

一人ひとりがいきいきとその人らしく中野で暮らしているために区民や関係機関が取り組む行動計画です。

第4次中野区民地域福祉活動計画は、「MEをWEにする」取り組みを、2024年から5年間で進めていきます。一人で抱えこまず、みんなで共有し、孤独・孤立を生まない地域を作ることを目指しています。

目次 table of contents

- 01 | 会長挨拶
- 02 | 委員長挨拶
- 03 | 第1章 中野区民地域福祉活動計画とは
- 04 | 第2章 第3次中野区民地域福祉活動計画の成果と課題
- 06 | 第3章 社会的孤立の今とこれから必要な地域のつながりづくりとは
- 12 | 第4章 第4次中野区民地域福祉活動計画の重点目標と取り組みの方向性
- 13 | 第5章 第4次中野区民地域福祉活動計画の取り組み

資料編

- 23 | 1. 第4次中野区民地域福祉活動策定に向けたアンケート結果
- 37 | 2. 第4次中野区民地域福祉 活動策定に向けたヒアリング結果
- 41 | 3. 第5期いきいきプラン推進委員会 委員名簿
- 42 | 4. 用語説明

社会的な孤立を生まない地域づくり～コロナ禍を越えて～

中野区社会福祉協議会(以下「中野社協」)は、「社会的孤立を生まない人と人がつながる地域づくり」を基本目標として2014(平成26)年3月に「第3次中野区民地域福祉活動計画」を策定しました。その当時まだ耳慣れない「社会的な孤立」を地域課題の根本的な要因として基本目標に位置付けたことは、先駆的なことだったと自負しておりますが、単身世帯が多い、20歳代、30歳代の若者の年代層が多い、流動人口が多いという中野区の地域特性を上げれば当然の帰結だったと思います。

しかし、2020(令和2)年からはじまった3年余りの新型コロナウイルス感染症の影響によって、残念ながら計画的な取り組みは大きく停滞しました。新たに「生活困窮者への支援」、「コロナ禍におけるつながりづくり」が喫緊の課題となったため、計画的な取り組みを軌道修正し、「中野つながるフードパントリー」や「ひきこもり等の生きづらさを抱える人への支援」などを重点的な取り組みとして活動を進めてまいりました。それでもコロナ禍の爪痕はまだ私たちの生活や活動に大きな影響を残しているのが現状です。

この「第4次中野区民活動計画」は、コロナ禍のような予測不能な事態等や地域状況の急激な変化も想定されるためこれまで10年間であった計画期間を5か年の期間に短縮することを決め策定されました。策定にあたっては、法政大学の宮城孝委員長はじめとする区民、関係機関、学識経験者の皆様に編成された「いきいきプラン推進委員会」において協議を進めるとともに、関係機関・団体等へのアンケートやヒアリングを実施し、地域懇談会を開催するなど、できるだけ多くの区民の皆様もからご意見をいただき策定作業を進めました。そしてコロナ禍を経て、今後推進すべき重点的な取り組みの方針と内容について取りまとめることができました。この場をお借りして関係された委員皆様、またご協力、ご意見を寄せていただきました区民、関係機関の皆様にご心より御礼を申し上げます。

もちろんこの計画は中野社協だけで進められるものではありません。一人でも多くの皆様がこの取り組みに賛同、参画していただくことが必要です。中野のまちを「誰もがいきいきと暮らせるまち」にできるよう中野社協としても力を尽くしてまいりたいと存じますので、今後ともご支援ご協力賜りますようお願い申し上げます。

2024年4月

社会福祉法人 中野区社会福祉協議会
会長 吉成 武男

「ME を WE にする」～社会的孤立を生まない中野の地域づくりに向けて～

人は、一人だけで豊かに生きていくことはできません。人と人がつながる中にこそ、自分の存在を確認し、生きることの意義を感じることができます。

この度の第4次中野区民地域福祉活動計画(「いきいきプラン」)の策定にあたって考慮したことは、第1に、3年余りのコロナ禍において、中野区の地域福祉の課題としてどのようなことがあるのか、人と人が直接対面で交流することが長く制約される中で、「声を出せない、あげられない」人が多くいるのではないだろうか。そのような人たちの声を拾い、受け止めるために必要なことは何なのか。私自身もオンラインによるセミナーで区民の皆さんの声をうかがうとともに、またアンケートやヒアリング調査などからそのような思いを、委員の皆さんと共有し活発に協議してきました。

第2には、単身世帯が多く流動人口の割合が高い、また若い世代が多い、中野区の特徴、また強みを活かし、民間の立場でできる事は何なのか、中野区における地域福祉の今後の課題に対応するために、社会福祉協議会が持つ強みを最大限に活かし、それらの課題にチャレンジする内容にしたいということでした。

その結果、計画の基本理念を、「わたしたちがいつもいきいきと暮らすために～社会的孤立を生まない人と人がつながる地域づくりをめざす～」として、その実現に向け、① 参加するほど楽しくなるまち NAKANO ② 多ジャンル共生でつくるまち NAKANO の二つの重点目標 そして、① 多様な居場所を作る ② 活動のすそ野を広げる ③ 必要な人に情報を届ける ④ 一人ひとりのニーズに合わせた支援につなげる との4つの重点事業が提起されています。

本計画を実現するために重要なことは、中野区の多くの関係機関や団体、地域住民等が活発に交流し、それぞれの立場でできることを通して協働することであると思います。

社会福祉協議会は、そのような力を発揮する媒介役として大きな力を発揮できる可能性を持っています。そのためにも、住民にとって身近な 15 の区民活動センターの各エリアにおいて、住民相互が活発に交流し、各地域の特性を踏まえた地域福祉の取り組みを着実に、また活性化していくことが求められます。

本計画が示している地域福祉の内容が着実に取り組まれ、中野区民による ME から WE への取り組みが広がり、社会的孤立を生まない人と人がつながる地域づくりが進みますことを願ってやみません。

いきいきプラン推進委員会
委員長 宮城 孝(法政大学)

